

ハイデルベルク信仰問答より

問 102 私たちは、また諸聖人およびほかの被造物によって、誓ってもよいのですか。

答え それはいけません。正しい誓いとは、人の心をさがし求める唯一の方として、神を呼び求めること、真理に対して証しする私がもし偽って誓うときには、罰してくださるように、神に呼び求めることであります。どのような被造物も、このような栄誉を受けるに値しません。

第三戒 あなたは、主なるあなたの神の御名を、無意味に唱えてはならない。なぜなら、主は無意味に御名を唱える者を、罰しないではおかないからである。

「神の御名を無意味に唱える」という問題を敷衍し、ここでは「諸聖人およびほかの被造物」にかけて誓うことが戒められています。プロテスタント教会において「聖人」の名前が持ち出されることはあまりありませんが、宗教改革時代にはローマ・カトリック教会の慣習の名残でそのようなことがあったのでしょうか。「聖パウロにかけて」「聖ヨハネにかけて」「聖母マリアにかけて」といった具合に。いずれにしても、これらの人々の名前にかけて誓うということもしてはならないとされています。

「ほかの被造物」と言う場合、太陽、月、星などが引き合いに出されるのではないかと想像しますが、これもまたふさわしくないことだと言われます。子どもたちの間で「命にかけて誓う」という言葉が安易に出てくることがあります。子ども自身がその意味を理解していないのでしょうか。その小さな誓いのために命を捨てることも厭わないという、恐ろしいことを言っているのです。誓いを立てる場合、その誓いが確実に実行されるという厳粛さと決意が求められます。

私たちの生活の中で第三者を証人として立てる事例は、結婚式における仲介や裁判における証言などが想定されます。結婚式の仲人という立場は、結婚する両者の関係が結婚生活の中で危機に陥った際、その関係を取り持つ役割を担うことがあります。今ではそのような役回りを担う人は少なくなっているかもしれませんが、仲人を引き受ける人はそれほどの思いをもって結婚する二人を祝福すべきなのです。また、裁判の場面において、日本では聖書に手を置いて証言するという機会はありませんが、欧米の習慣としてそれを見ることがあります。聖書に手を置くということは、神のことばにかけて誓っているということであり、もしその証言が偽りであるならば神の怒りを身に受けてもよいと宣言していることとなります。神を畏れない人にとっては、偽りの証言は怖いものではないかもしれませんが、死後に受ける裁きを理解している必要があります。神を畏れる人は、真に必要な機会にのみ誓うべきであり、その誓いが神の御前でなされているということを心に刻んでいなくてはなりません。

正しい誓いとは、人の心をさがし求める唯一の方として、神を呼び求めること、真理に対して証しする私がもし偽って誓うときには、罰してくださるように、神に呼び求めることであります。